

実証概要

Demonstration overview

加西市教育委員会 学校教育課

教育DXで非認知能力は測れるか？！データでより良い教育を実現

課題

- ・加西市では、加西市が育成したい非認知能力の指標作成、評価ができていない
- ・非認知能力育成シートを活用する学校もあるが、データ測定や集計にかかる教職員の負担が大きい

実証内容

- ・スポーツスクール向けに開発・活用していた非認知能力測定システムを、加西市向けに短時間で実施できる形で公立小中学校に提供する

採択企業

リーフラス株式会社

登録～測定の流れ



実績・成果

- ・中学校4校,小学校5校 計1,409名の測定実施
- 「大変満足・満足」(43.8%) 「どちらでもない」(39.6%) 「積極的に活用したい・必要に応じて活用したい」(70.9%)

解決したい課題

「3C次世代型人材」を育成

(Challenge) 正解のない問題に 挑 戦

(Collaborate) 多様な他者と 協 働

(Create) 新しい価値を 創 造



【課題】

- ・ 加西市が育成したい3Cの非認知能力の指標作成、評価ができていない
- ・ 「協働性」や「創造力」など人間の行動や性格を形成する「非認知能力」は指標化が難しく評価が難しい
- ・ データ測定や集計の教職員の負担が大きい

実証内容

スポーツスクールで開発・活用していた非認知能力沿測定システム「みらぼ」を、加西市向けに短時間で実施できる形で公立小中学校に提供しました。

登録～測定の流れ



※非認知能力

IQや学力、記憶力、論理性といった数値で図れる力と異なり、勤勉性や意欲、忍耐力、思いやりといった数値では図ることのできない力のこと。近年の研究では、非認知能力が将来の社会的、経済的成功を支えていることが明らかになっている、重要な能力のこと。

実証実験の様子（測定）

4



泉中学校 1 年生 測定の様子（1月）

実証に使用したサービス・システム

■診断表イメージ（個人用）



実証に使用したサービス・システム

■診断表イメージ（クラス単位）

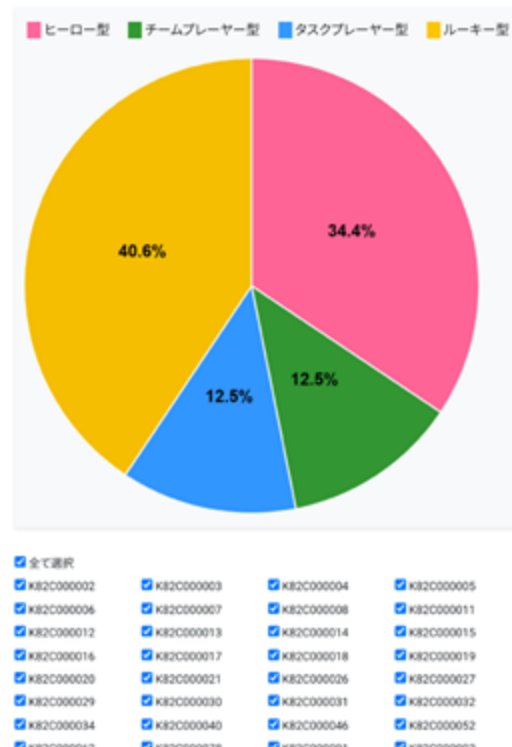
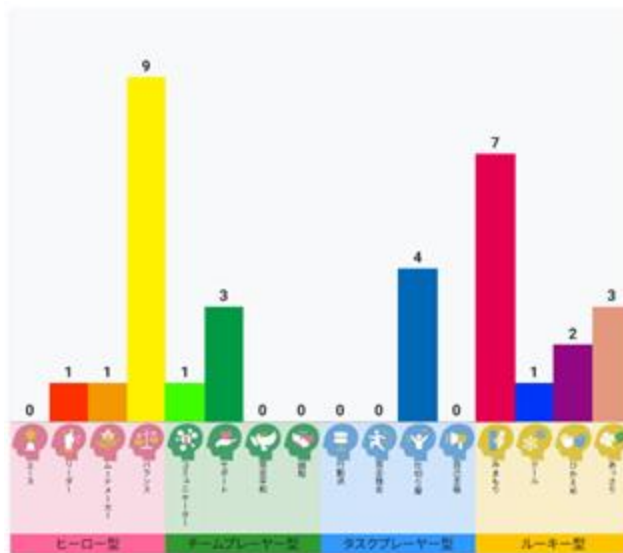
2024年 2学期 あなた(お子様)の「非認知能力」測定

検索結果: 32 名

みらぼレポート作成

学年 中学3年生

クラス 1組



実証結果

加西市の小学校向けに短縮した質問項目等を用いて、9校1,409名に非認知能力の測定を実施しました。

学校数

小学校 5 中学校 4

9校

児童・生徒数

小1～中3

1409人

短縮した設問数

小学校向け

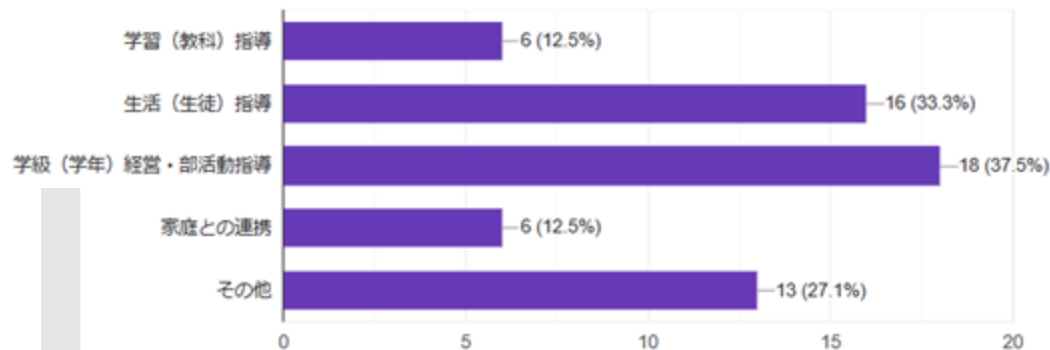
20問

測定した学校教職員へアンケートを実施し、48名が回答
満足度は、大変満足・満足：43.8%、どちらでもない：39.6%

実証結果

測定結果を「活用した」との回答は37.5%で、**学級経営・部活動指導などで活用**されました。**70.9%が「積極的に活用したい」「必要に応じて活用したい」と回答**しました。

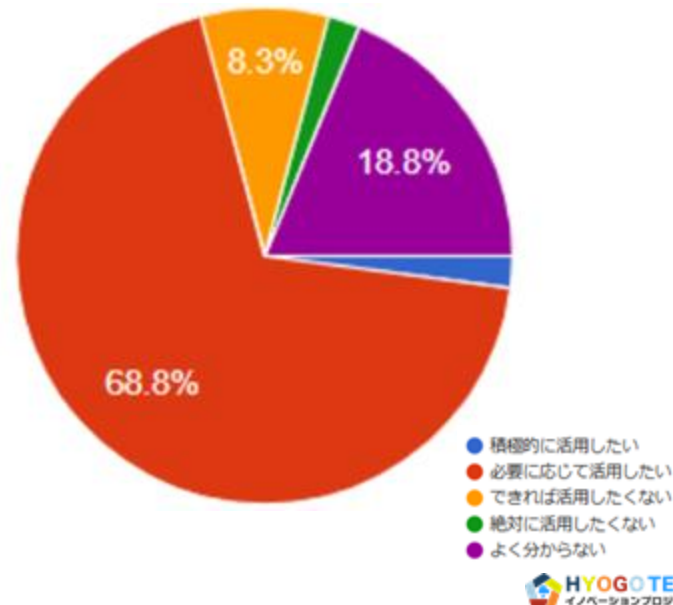
＜活用場面＞



例えば、...

- ・部活の中でどんな結果だったか話を聞いたり、自分の強みを知ることが出来たね、と部員たちと話をした
- ・リーダーシップが課題に挙げられたため、授業の中で役割を振り、話し合いを引っ張る体験ができるようにした

＜今後の活用ニーズ＞



今後の展開（採択企業）

本実証を基に、加西市にてリーフラスの謳う非認知能力（5つのチカラ）を測定出来たことから、加西市の求める3Cに当てはめる可視化の可能性は見いだせました。現状、他の自治体でも同じような対応が取れているため、その事例も含めて3C測定構築を進めていきます。

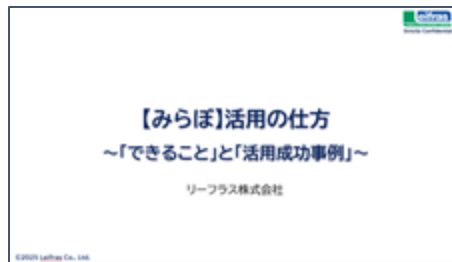
当てはめのイメージ



今後の展開（採択企業）

本実証を基に加西市教職員から挙げた「測定結果の活用方法が分からない」、「教えてほしい」という声と、活用したいという声を実現するためにも先行活用事例や成功事例の資料展開を行い、今後も加西市教育委員会や各学校と伴走をしながら、児童・生徒の非認知能力を育む環境を構築していきます。

成功活用事例



活用ポイント

